

太陽熱土壤消毒前基肥全量施肥による実エンドウ省力栽培

実エンドウ用、消毒前先入れタイプの新肥料を開発

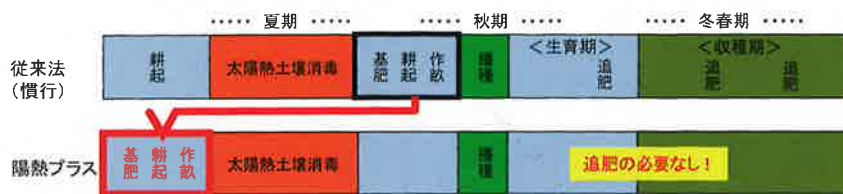


研究開発の背景

- ◇本県の実エンドウは、全国有数の生産量を誇り、本県野菜の基幹品目の一つ。
- ◇連作障害防止として夏季に太陽熱土壤消毒を行うが、従来法では消毒後に施肥・耕起を行うので消毒効果の安定性に欠ける。
- ◇古くから連作障害対策として多肥栽培を行うので、土壤養分が集積傾向にある。
- ◇生育後期の草勢維持のため、数回の追肥を行う必要がある。

研究成果の内容

新たな栽培体系「陽熱プラス」 (太陽熱土壤消毒前全量基肥施肥技術) をマニュアル化



○作業とコストを削減

実エンドウ用に開発した「ハイパーCDU®有機配合」を太陽熱土壤消毒前に全量基肥施肥することで、無追肥で慣行栽培と同等の収量が得られる。

☆施肥量20%削減 (慣行N30kg/10a) ☆施肥労力55%削減 ☆肥料費9%削減

○太陽熱土壤消毒効果を維持

消毒後の土壤混和 (施肥・耕起) による再汚染が生じにくい。

太陽熱土壤消毒が十分であれば補充薬剤 (クロルピクリン) による土壤消毒も削減できる。



図1 ハイパーCDU®有機配合

微生物分解性肥効調節型
肥料ハイパーCDU®を配
合しているので高地温で
の溶出が緩やか。
(保証成分: N:P₂O₅:
K₂O=10:4:8)

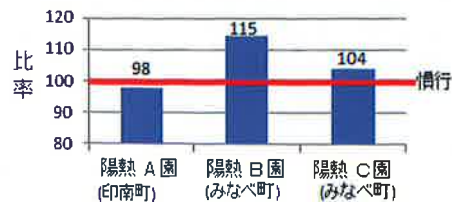


図2 慣行栽培と陽熱プラス栽培の収量比

導入メリット

- 陽熱プラスは10aあたり5万円程度の経費を削減できる。
- 施肥及び薬剤による土壤消毒も削減できる (作業時間 慣行比35%減)。

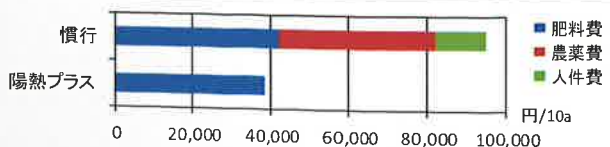


図3 陽熱プラス栽培と慣行栽培のコスト比較

期待される効果

☆陽熱プラス栽培体系の導入により、エンドウ栽培における軽労化とコスト削減が期待できる。